

Title	ピア・スーパービジョン : 4つの分野にわかれて
Author(s)	室井美紀, 川田虎男
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2226
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE



4人の報告を受けて、ピア・スーパービジョンでは4つの班に分かれて話し合った。

実践を報告する中で、「今後の仕事への気づき」や「ソーシャルワーカーとしての視点」何より「悩んでいるのは自分だけではない」という安心感を獲得することができたと感じた。

グループ・ディスカッションの中で表出した課題は、個人のソーシャルワーカーのスキルアップにより解決するもの、職場全体で取組まなければいけないもの、また仕組みや制度そのもののあり方に問題があるものなど、多様である。現場職員同士が、このような機会を通して課題を共有し認め合うことから、日常の変化につながっていくのだと感じられた。同時に、当日参加して下さった多くの先生方にとっても、同じ課題に取り組む仲間として一緒に考えていただくことができたのは、大変貴重な機会となった。卒業後もこのような形で支えていただけることにこの場を借りて、改めて感謝したい。

(むろい・みき 上尾中央総合病院 医療相談員・社会福祉士、2001年度聖学院大学人間福祉学科卒業)

(かわた・とらお 日高市議会議員、元鶴ヶ島市社会福祉協議会職員(ボランティアコーディネーター)・社会福祉士、2001年度聖学院大学人間福祉学科卒業)

(2010年4月17日、新都心ビジネス交流プラザ会議室)

35ページのアンケート結果もご覧ください。

4つの分野にわかれて
ピア・スーパービジョン
室井 美紀
川田 虎男

ピア・スーパービジョンでは、各報告者の話を受けそれぞれの実践分野ごとに集まったの話し合いとなった。前半の報告者の率直な発表を受け、グループ・ディスカッションでも真剣な意見交換が行われた。

私の参加した医療福祉分野では、まだまだ専門職としての扱いを受けていない現場の中で、他の専門職種に対してどのようにソーシャルワーカーの仕事を理解してもらい、またその実践を図っていくかが大きなテーマとなった。各グループとも限られた時間の中で、それぞれの課題に対する答えを出すには至らなかったが、グループ内で今の